

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は，昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり，昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ，平成8年には33万トンに増加し，平成10年までは30万トン台で推移しましたが，再び減少傾向に転じ，平成23年も16万8千トンと低調に推移しました。

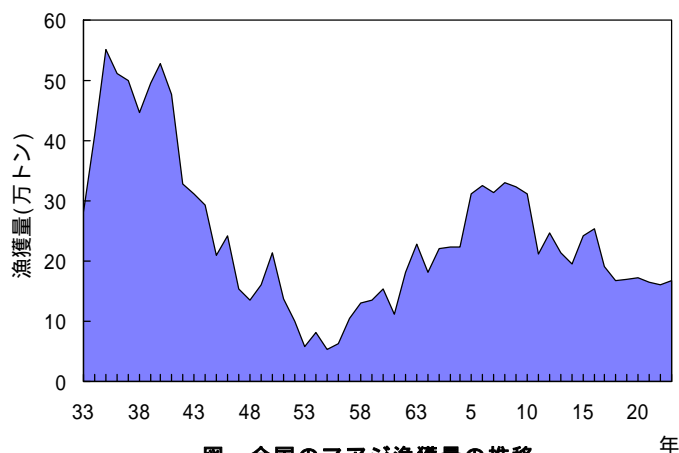


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成 25 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では，10・11月に甕東に漁場が形成されました。

薩南海域では，11月に島間沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では，マアジ仔，豆（0歳魚：平成25年生まれ）主体に483トンの水揚げで，前年の119%及び平年の85%となりました。

3. 平成 26 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は，マアジ豆，小（1歳魚：平成25年生まれ）で，マアジ小，中（2歳魚：平成24年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は，前年並で平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ1歳魚は，10・11月にややまとまった漁獲があり，前年を上回ると考えられますが，2歳魚以上は，これまで北薩海域で低調に推移していることから前年を下回ると考えられます。以上のことから，全体としては，前年並で平年を下回ると考えられます。

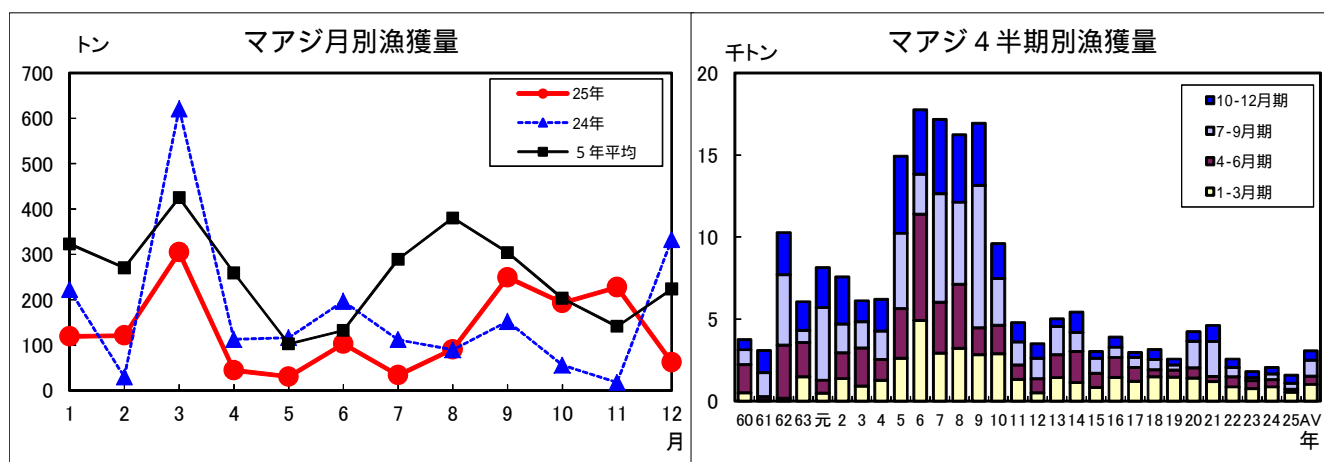


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成20～24年）の平均値(AV)，平成25年12月25日までの水揚げ量を使用

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンをピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少しましたが、平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しました。その後再び減少し、平成14年は28万トンになりました。平成17年・18年は再び増加しましたが、平成19年以降減少傾向にあり、平成23年は39万3千トンとなりました。

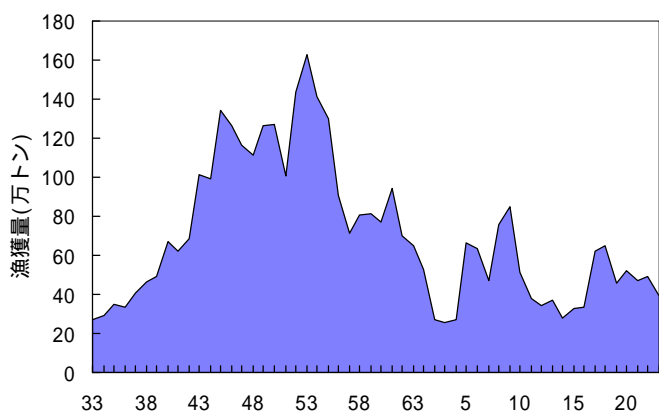


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成 25 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、10・11月に甑東に漁場が形成されました。

薩南海域では、11月に枕崎沖，屋久新，島間沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、北薩海域でサバ類中(2歳魚：平成23年生まれ)，薩南海域でゴマサバ中小，中(2・3歳魚：平成22・23年生まれ)主体に1,010トンの水揚げで、前年の76%及び平年の24%となりました。

3. 平成 26 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小，中(2・3歳魚：平成23・24年生まれ)で、ゴマサバ小(1歳魚：平成25年生まれ)も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバ1歳魚は、加入状況が低調であることから、前年・平年を下回ると考えられます。

2歳魚，3歳魚は今期も漁獲の主体として来遊しますが、これまでの漁獲状況から前年・平年並と考えられます。以上のことから、全体としては、前年・平年を下回ると考えられます。

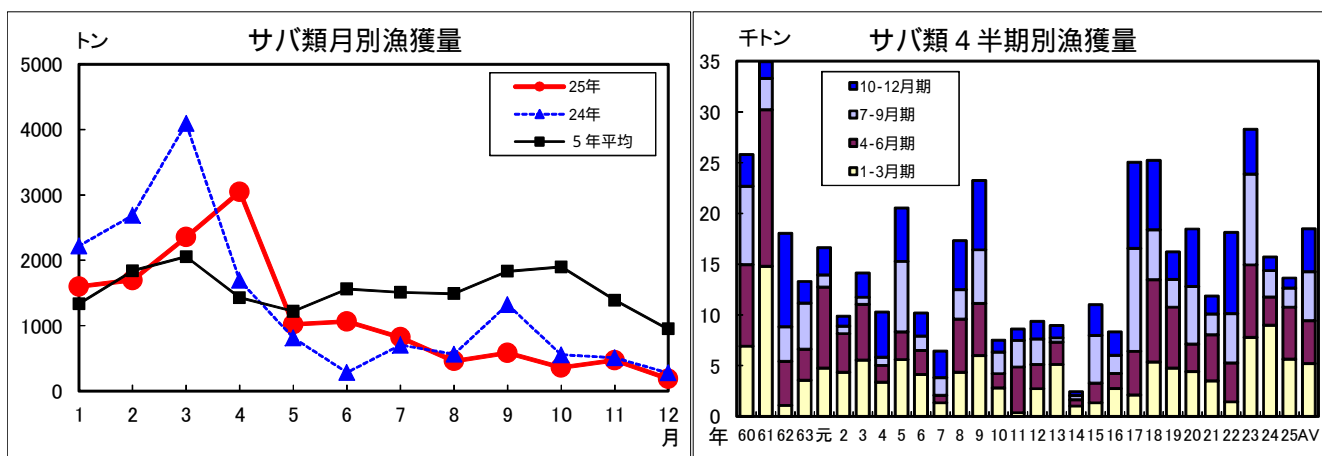


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成20~24年)の平均値(AV)，平成25年12月25日までの水揚量を使用

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から全国的に漁獲量は減少を続け、平成10年は16万7千トンとなり、その後さらに減少し平成14年は5万トンとなりました。

以降、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年は18万トンで10年ぶりに10万トンを超える漁獲がありました。

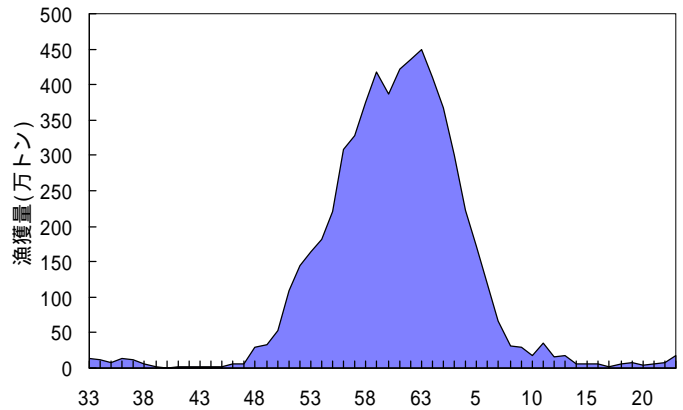


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成 25 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、天草沖、牛深沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場が形成されませんでした。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖にかけて漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽(0歳魚：平成25年生まれ)主体に782トンの水揚げで前年の23倍、平年の6倍で好調に推移しました。

北薩海域の棒受網は、31トンの水揚げで前年の194%、平年の82%となりました。

3. 平成 26 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽(1歳魚：平成25年生まれ)でしょう。

来遊量は前年、平年を上回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲の主体となる1歳魚(平成25年生まれ)は、これまでの漁獲状況から、北薩海域を中心に比較的良好な加入が続いていると考えられるので、前年、平年を上回る来遊が見込まれます。

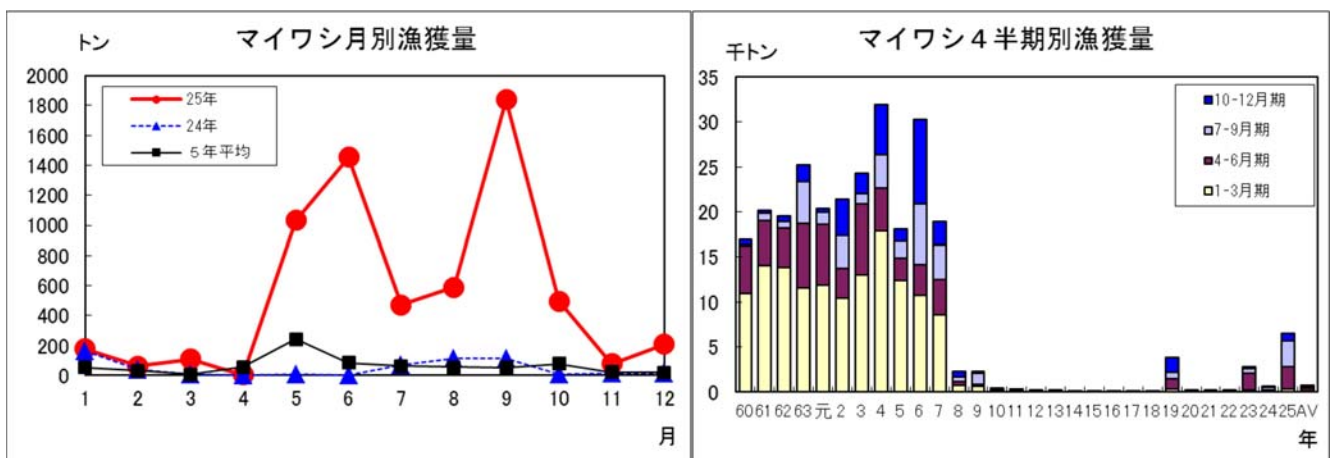


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成20~24年)の平均値(AV)、平成25年12月25日までの漁獲量を使用

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代から60年代にかけて3～5万トン前後で推移しました。

その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりましたが、翌年以降減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりました。

平成15年以降は再度増加傾向となり、平成23年は8万5千トンと大幅に増加し、昭和33年以降最高の漁獲量となりました。

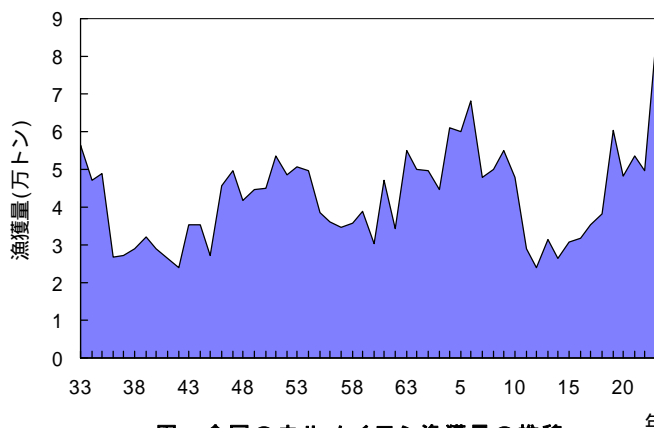


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成25年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、天草沖、牛深沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎沖、開聞沖、坊津沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽～中羽（0歳魚：平成25年生まれ）主体に2,849トンの水揚げがあり、前年の120%、平年の133%でした。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖にかけて漁場が形成され、449トンの水揚げがあり前年の126%、平年の105%となりました。

3. 平成26年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1歳魚：平成25年生まれ）になるでしょう。

来遊量は前年、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期は、九州東岸を南下し薩南海域で漁獲される群が主体となります。

漁獲の主体となる1歳魚（平成25年生まれ）は、北薩海域を中心に好調に推移していることから、前年、平年並の来遊が見込まれます。

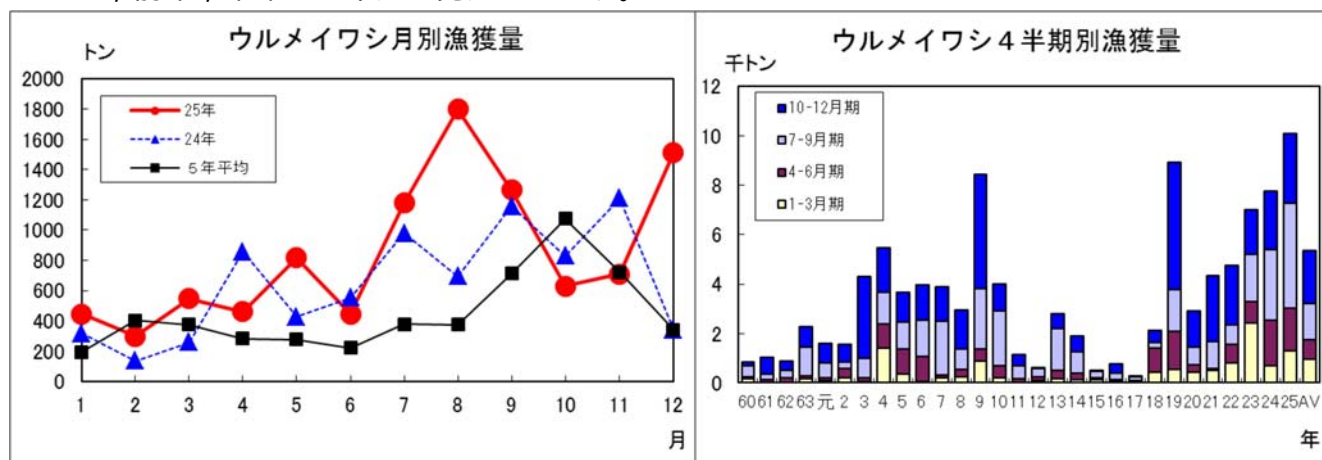


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成20～24年）の平均値(AV)、平成25年12月25日までの漁獲量を使用

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成13年は30万トン、平成14年は44万トンでした。平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成23年は26万2千トンとなりました。

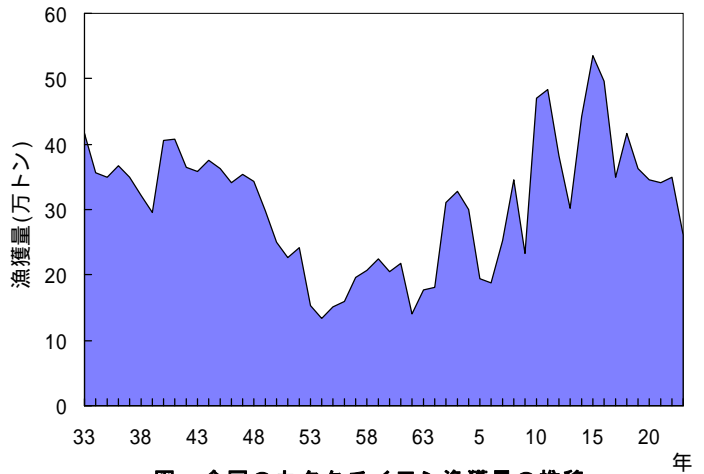


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成 25 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【 4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、天草沖、長島、縄瀬、甌島東に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では 230 トンの水揚げで、前年の 93 %、平年の 219 % でした。

北薩海域の棒受網では長島に漁場が形成され、中羽（0 歳魚：平成 25 年生まれ）主体に 44 トンの水揚げで、前年の 52 %、平年の 133 % でした。

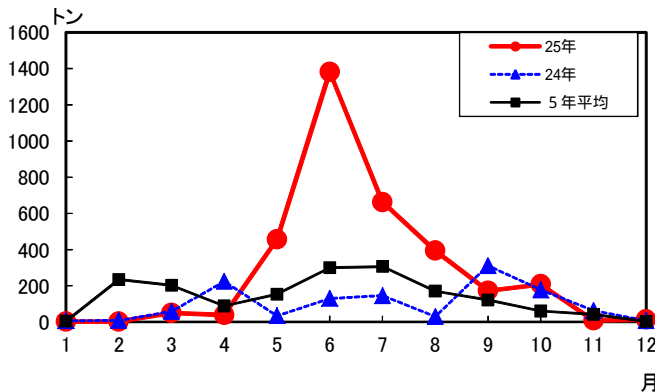
3. 平成 26 年 1 ~ 3 月期の見とおし

中羽（平成 25 年生まれ）、大羽（平成 24、25 年生まれ）が漁獲の主体となり、前年並で、平年を下回ると考えられます。

（根 拠）

前期の漁況、西薩海域のバッチ網の漁況から来遊水準は低いと考えられ、低調であった昨年並で、平年を下回ると考えられます。

カタクチイワシ月別漁獲量



カタクチイワシ 4 半期別漁獲量

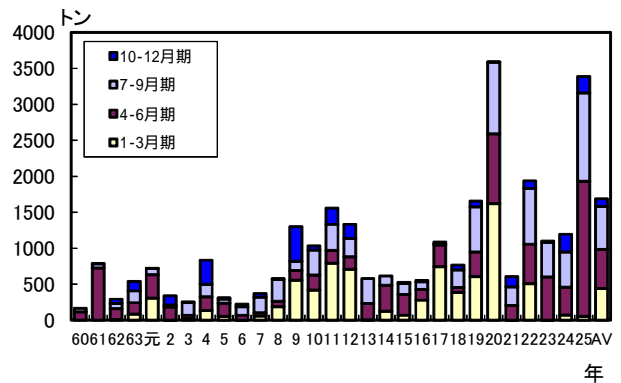


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

平年値は過去 5 年（平成 20 ~ 24 年）の平均値 (AV)，平成 25 年 12 月 25 日までの漁獲量を使用

[シラス]

1. 経年経過及び平成 25 年 10 ~ 11 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 24 年は 1,464 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、平成 24 年は 1,002 トンとなりました。

今期の西薩海域はまとまった漁獲がなく、カタクチシラス主体で 53 トンの水揚げで、前年 11 %、平年の 16 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体で 396 トンの水揚げで、前年の 160 %、平年の 198 %でした。

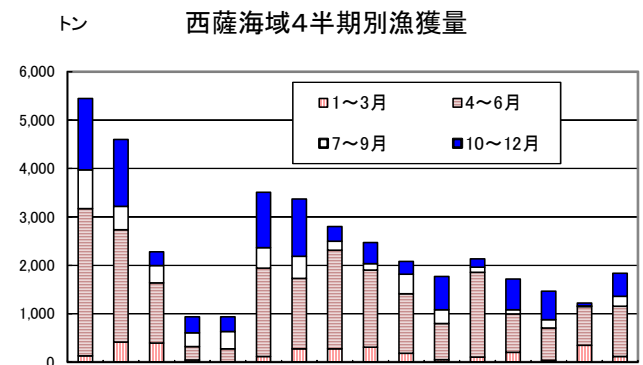
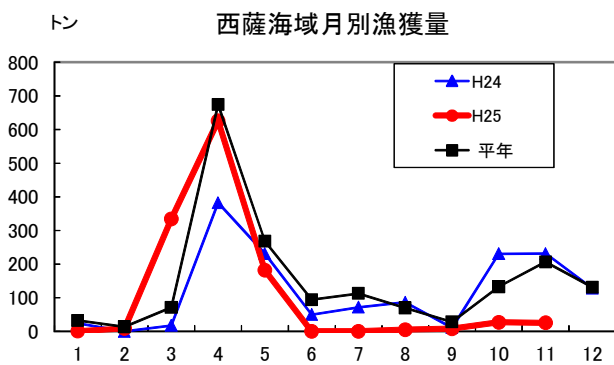


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

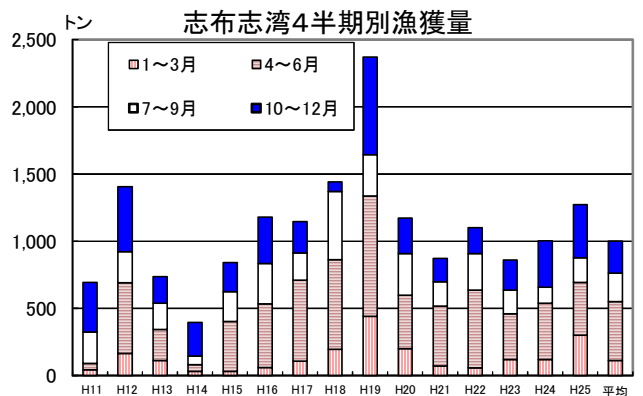
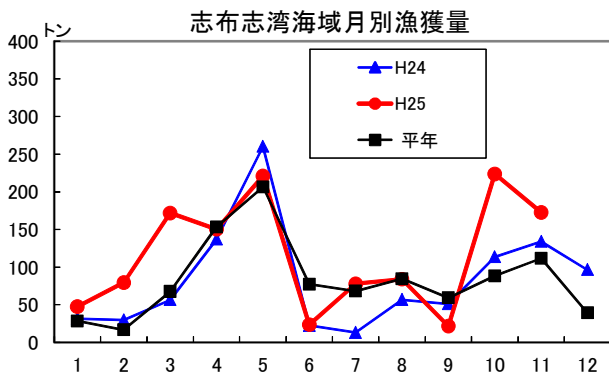


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去 5 年(平成 20 ~ 24 年)の平均値(AV)、平成 25 年 11 月末までの漁獲量を使用

[イワシ類参考資料]

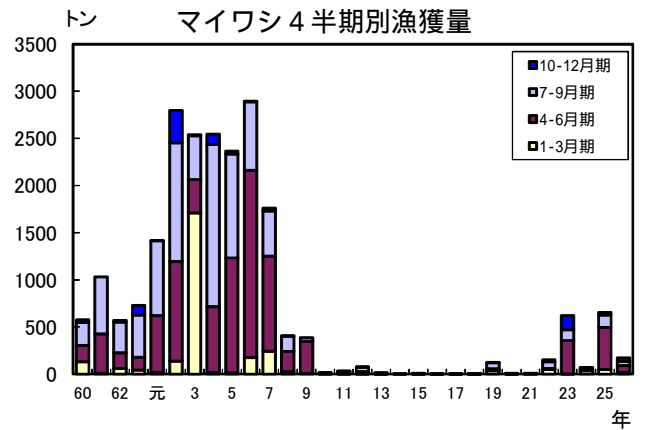
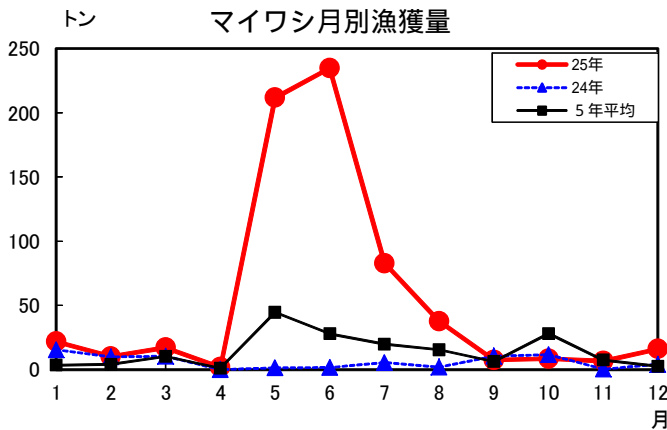


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

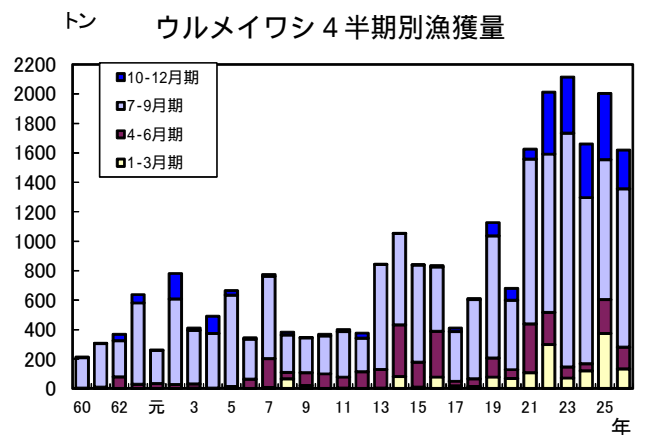
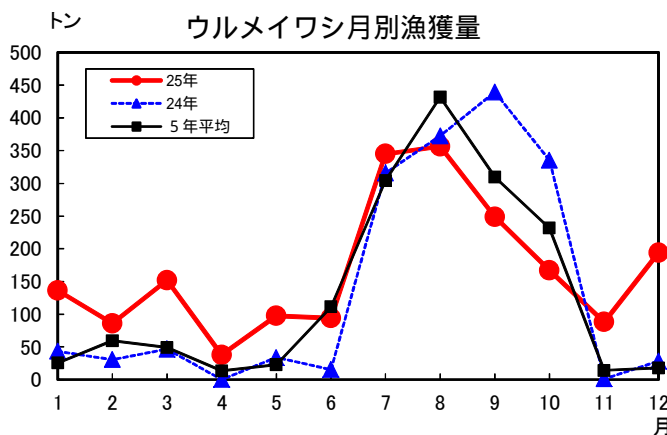


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

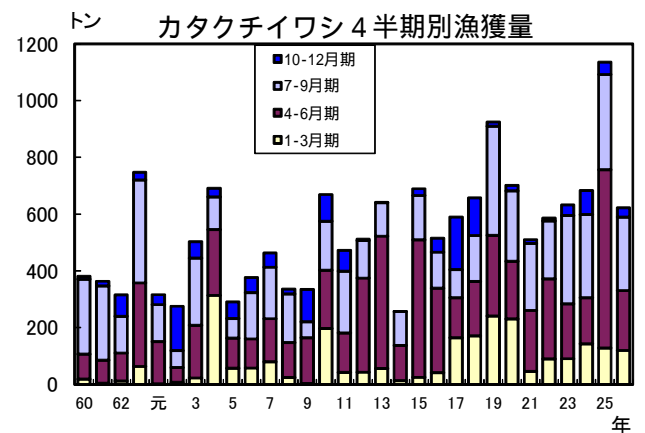
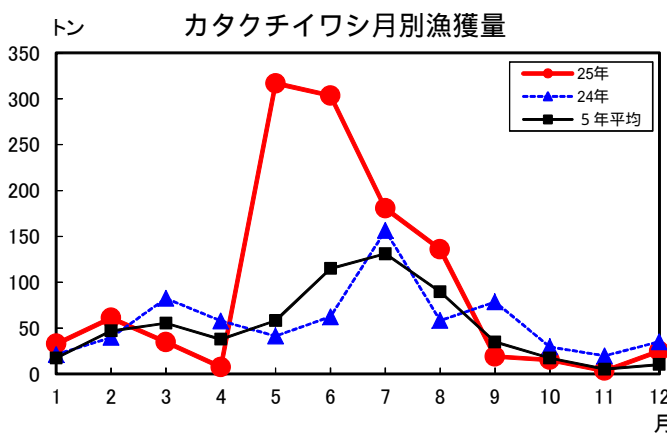


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

平年値は過去 5 年 (平成 20 ~ 24 年) の平均値 (AV), 平成 25 年 12 月 25 日までの漁獲量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）(水産技術開発センター調べ：4港計)

1. 経年変化及び平成25年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トン进行ピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成24年は3,199トンとなりました。

平成25年10～12月は、薩南海域では、クサヤモロ小，豆主体の漁獲があり、期全体で1,964トンの水揚げで、前年の129%及び平年の139%となりました。

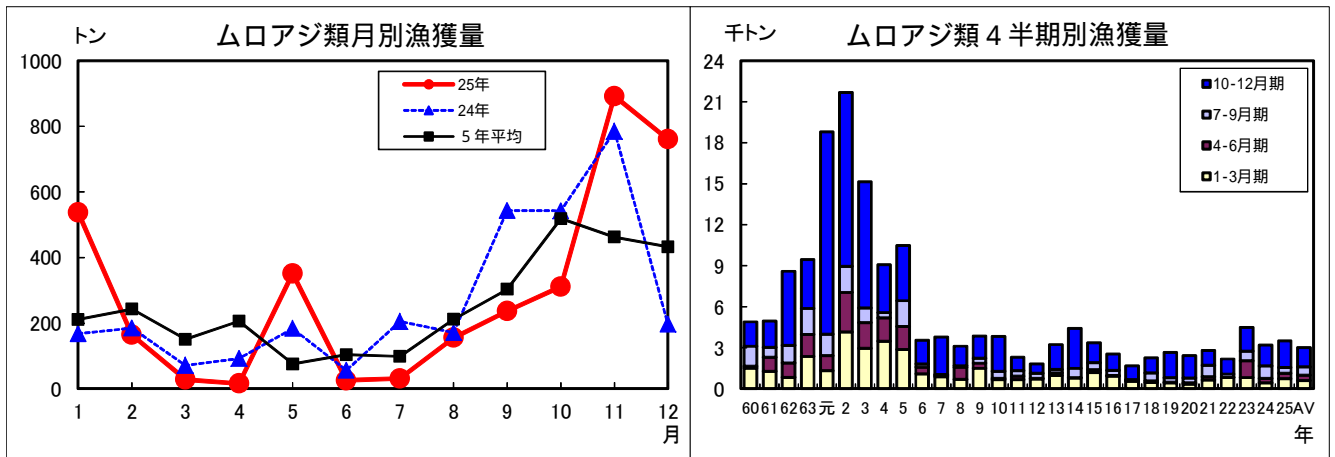


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成20～24年)の平均値(AV)，平成25年12月25日までの水揚量を使用

オアカムロ(水産技術開発センター調べ：4港計)

1. 経年変化及び平成25年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成24年は842トンとなりました。

平成25年10～12月は、薩南海域では、内之浦沖，屋久島南でオアカムロ中，中小主体の漁獲があり、期全体で590トンの水揚げで前年の139%及び平年の157%となりました。

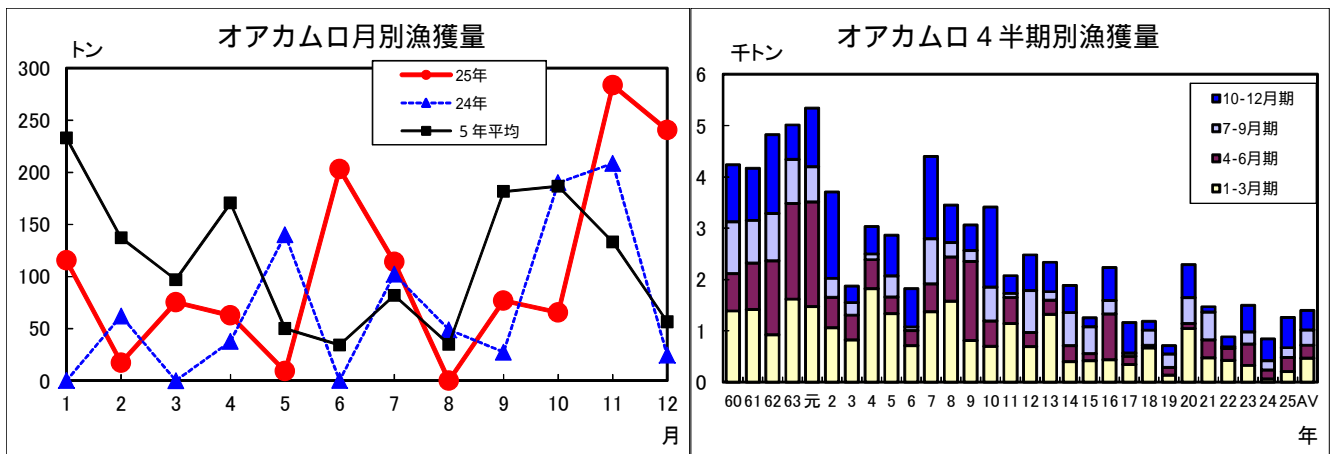


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成20～24年)の平均値(AV)，平成25年12月25日までの水揚量を使用

マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）

1. 経年変化及び平成25年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

22、23年はやや増加したものの、24年は247トンと再び減少しました。

平成25年10～12月は、11・12月に、野間池沖でマルアジ中主体の漁獲があり、期全体で229トンの水揚げで、前年の718%及び平年の323%となりました。

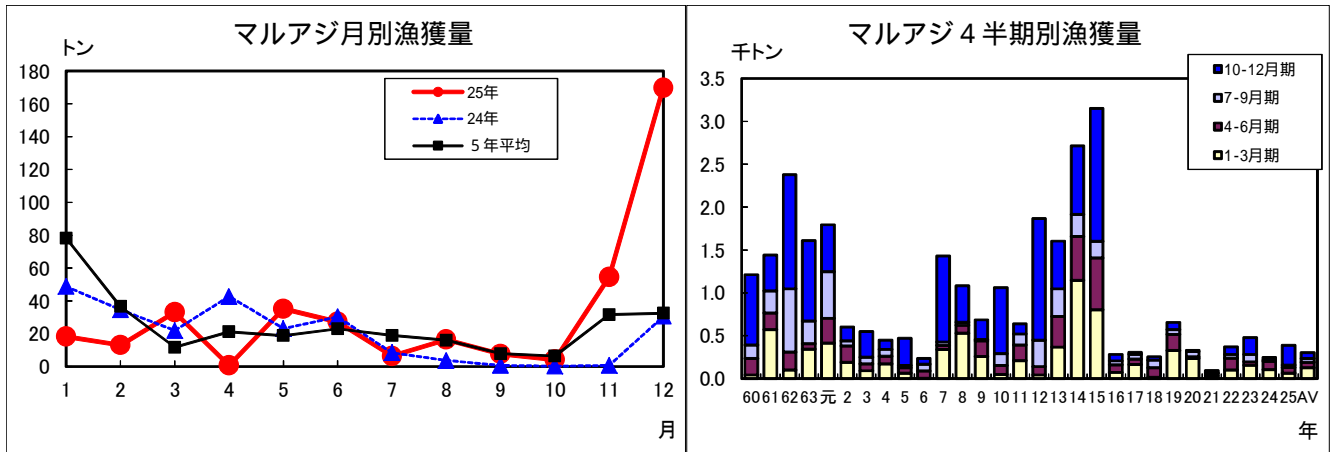


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成20～24年）の平均値(AV)，平成25年12月25日までの水揚量を使用